

## 社会技術研究開発事業 研究開発プログラム「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」

### 平成21年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

1. 研究代表者：田島 順逸（北海道利尻町長）

2. プロジェクト企画調査の題名：バイオマス資源を活用したエネルギー自立型社会の構築を目指して  
（離島モデル）

3. プロジェクト企画調査期間：平成21年10月～平成22年3月

#### 4. プロジェクト企画調査の概要：

日本の最北端利尻町は、冬季の暖房用燃料や事業用燃料の多くを灯油や重油などの化石燃料に依存してきたが、離島という地理的条件から割高な燃料コストを強いられており、安価で安全な燃料の供給がうまく望まれている。このことから、本企画調査では、未利用の地域資源であるササを活用したバイオマス燃料導入による地域自立型エネルギー供給体制を確立することを目標に、以下のことを行った。①バイオマス利活用検討協議会の設立及び運営、②ササペレット燃焼試験、③バイオマス利活用フォーラムの開催、④バイオマス燃料導入に対する意識調査、分析、⑤町民及び主要エネルギー消費施設のバイオマス燃料導入に対する意向調査。

#### 5. 事後評価結果

##### 5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

計画書に記載された実施内容を行う、ということでは目標は達成されているようである。しかし、本企画調査内容を利尻における今後のバイオマス活用につなげていくためには、なお多くの課題がある。

第1に、バイオマス利活用検討協議会は、町内の各セクターから組織されているが、何を達成するために、何を仕掛け、何を生み出していけるのかの長期的な展望のなかでの協議会の位置づけが示されていないため、本企画調査における2回の会合開催の意義や成果がわかりづらい。第2に、ササの刈取り方法等は、景觀配慮も含め、よく検討されているが、市民意見の聴取、環境省からの意見の聴取・協議がどのように行われたのかが報告書からは明らかではない。環境アセスメントの基本原則を満たすようなプロセスを踏んでいくことが必要と考えられる。第3に、燃焼実験は初回としては意味があると思われるが、長期的に期待されるササの収穫量、それにより賄えるエネルギー量が示されておらず（後に追加資料として提出された）、その有効性を判断するデータとしては限界がある。第4に、バイオマス利活用に対する意識調査の内容は、残念ながら、抽象的・一般的な内容にとどまり、この地域での事業の具体化との関係が不明確なまま行われている。もう少し質問項目が工夫できたのではないかと思われる。

##### 5-2. 研究開発プロジェクトの提案にむけた準備状況

研究開発プロジェクト提案のためには、なお以下のような課題が残されていると考えられる。

- ・利尻町における、地域エネルギー自立や活性化の研究開発プロジェクトの提案のためには、上記課題の検討に加え、誰がどのようにこの事業を進めるのか、多様な主体の関与を考慮し、具体的な行程を明確にしていく必要がある。
- ・そのためには、提案される事業の有効性や将来展望が判断できるだけのデータ、すなわち、ササの収穫量、事業主体、エネルギー量の見込み等、さらには、現在提示されている収穫場所、方法等に関する幅広い市民の意見や、環境省からの意見についても把握し、記載することが必要である。

- ・全体として、2050年の利尻町の未来像をどう描くのか、主要な産業としての漁業や観光業のあり方を、住民参加のなかで、脱石油漬け社会・生きがいのある島づくりといった視点も交えて大きく構想していただきたい。町民がますます元気になり、人々が戻って来るような、楽しく持続し生存する島を作ることが、本領域が期待する提案である。